



鉄砲館だより

種子島開発総合センター

☎ 23-3215

# ぶんぶん文化財

Cultural property

## ウシウマ

【第4回】

先月、あるクイズ番組で出題された絶滅動物ウシウマ。鉄砲館では市指定文化財の「骨格」と模型、写真などを正面ロビーに展示しています。

ウシウマは、1598年に島津義弘（島津氏17代当主）が朝鮮から十数頭を持ち帰り飼育を始めた牛っぽい馬。1683年、頭数減少により5頭の飼育を託された種子島氏は、安城村の芦野牧に放牧し、明治維新の頃までに約60頭に増頭させました。

体高約130センチ、体重250キログラム前後の中型馬でタテガミやシッポの毛がほとんど無いのが特徴。中には体毛さえ無い「はげ型」と呼ばれるものもありました。人に慣れやすく、粗食に耐え、体は小さくても力が強いので、道が狭く坂の多い種子島に適した馬でした。また長寿の馬でもあり、骨格展示されている第二平山号は、27〜28歳（人間だと百歳以上）まで生きました。

昭和6年に国の天然記念物に指定され、

同11年に昭和天皇が御覧になるなど大切にされましたが、様々な要因が重なり、



ウシウマ（牛馬）

種類 哺乳類、草食類  
産地 日本（鹿児島県種子島）

戦後の同21年6月に残念ながら絶滅してしまいました。最後の1頭（第四田上号）は鹿児島県立博物館に骨格展示されています。

なお右の写真は、東京市（※）が発行した絵はがきに掲載されたウシウマです。

※明治22年〜昭和18年に存在した市

